



## P-3Cに体験搭乗 海自下総航空基地



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月27日（土）、海上自衛隊下総航空基地（千葉県柏市）で実施された「P-3C 哨戒機体験搭乗」に7人を引率した。これは、海上自衛隊教育航空集団が、静岡県をはじめ関東甲信越地域の高校生や大学生を対象に、実際に哨戒機に搭乗してもらい、哨戒任務や飛行訓練への理解を深めてもらうと企画したもの。同型機がソマリア沖アデン湾で、今この時も海賊対処に就いているとの基地担当者の説明に、学生たちはこれからの実任務機に搭乗するとの思いからか、真剣な面持ちで聞いていた。そして飛行時の注意事項の説明を受け、いよいよ搭乗。すでにP-3Cのエンジンは始動しており、その轟音に学生たちは耳を押さえながらタラップを上り機内へ。そしてしばらくするとスムーズに滑走路から離陸、たちまち千葉上空に到達し、東京デイズニerlandなどを眼下に、約20分間の飛行を体験した。着陸後学生たちからは「自衛隊機も民機と同じように乗り心地が良かった」「普段できない貴重な体験ができた。将来、海上自衛官になってP-3Cの搭乗員として勤務したい」と興奮した様子で語っていた。そして、学生たちは航空機に指示を出す管制塔も見学。海上自衛官の管制官が英語でパイロットと通信している様子を見ながら、管制業務についての説明を受けた。学生からの「英語が得意でない」と管制官にはなれませんか」との質問に、「各々の状況で使用する単語はある程度決まっているので、そう心配しなくても大丈夫」と管制官が答えるので、学生たちは笑顔で「頑張ってみよう」と意気込みを話していた。

静岡地本は、今後も体験航海や体験搭乗など実際に装備品を体験できる機会を通じ、自衛隊の任務や活動に対する理解促進を図るとともに、熱意ある志望者の発掘に邁進していく。

## 高校生が自衛隊で職場体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月24日（水）、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地（御殿場市）において、沼津市に所在する飛龍高等学校と御殿場市に所在する御殿場高等学校生徒の自衛隊職場体験を実施した。

職場体験には、自衛隊に興味のある両校の2年生男女7人が参加。自衛隊の仕事の一部を体験したり、隊員と同じ食事を一緒にとれることを楽しみにしていた。

はじめに自衛隊の概要説明を受けた後、作業しやすい体操服に着替え、昨今の集中豪雨の際に応急的に土砂や雨水の進入を防ぐことのできる土嚢作りを体験。生徒たちはたくましい隊員からコツを聞きながら袋に土を詰め、いざという時の対処法や心構えを熱心に学んだ。また自衛隊は命を守る全ての装備品に対して「物品愛護」の精神を持っており、使用した土工具や土嚢袋を大切に取り扱い、最後の後片付けまで取り組んでその精神の一部にふれた。

午後は、資料館で駐屯地や先人たちの歴史にふれ、そして本職場体験の目玉である「96式装輪装甲車」に実際に乗車して駐屯地内を体験走行した。

最後は、三角巾の使い方や、捻挫した際の足首固定法について体験学習し、最近「自衛隊ライフハック」としてそのノウハウが注目を集めていることもあり、有意義な体験となったようであった。

終了後、生徒からは「日頃体験できない災害派遣活動の一部も体験でき、とても充実していて楽しかった」「隊員の方はたくましく優しくて、自衛官の印象が変わった」などとの感想が寄せられた。

静岡地本は、引き続き高校生や学生に自衛隊の活動を紹介し、就職先の最優先候補となるよう努めていく。

## 海上自衛隊の魅力をラジオでPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月3日（土）、エフエムしみず・マリオン（静岡市）で行われたラジオ番組「自衛TIM E S ☆静岡」の収録に参加した。

今回は、海上自衛隊の艦艇勤務の魅力を紹介するため、同日に開催された「清水みなと祭り」に際して入港した艦艇の、特に若い隊員に出演協力してもらった。

出演したのは護衛艦「はるさめ」乗員の梅尾翼三等海曹と、掃海艦「ひらぶ」乗員の静岡出身の古屋一樹三等海曹。二人は初めてのラジオ出演に緊張した面持ちであったが、同僚隊員からの「じつかにアピールしてこいよ。ラジオみんまで聴こうな」という声援に、気を取り直して収録スタジオに元気に向かった。

最初はやや硬い表情でマイクの前に座っていたものの、ベテランパーソナリティから出身地や勤務経験などをテンポ良く聞かれていくうちに緊張もほぐれ、中盤から和やかなムードで収録は進んだ。

梅尾3曹は「子供の頃から海が好きで、その海を守ることもできる海上自衛官になりたい」と思っていた。そして今は日本の海や船舶を守る護衛艦に乗り込めて嬉しい。艦の舵を取る航海科員は花形職種であり、このラジオを聴いて興味をもった方は、ぜひ艦艇勤務を志願してください」と、誇り高い護衛艦勤務や自身の仕事をPRした。

一方、古屋3曹は静岡県出身ということで、「清水港は活気溢れるとても綺麗な港だと小さい頃から思っていました。海上自衛官になり、国内外の港に寄港して清水港に思いをはせつつ、その土地の文化に触れられる貴重な経験を得られるのは艦艇乗りならではのですね」と親近感の向上にも一役買った。

なお、この番組は約10年前より協力団体「清水自衛隊友の会」の提供で、毎週静岡市を中心に放送されている。

静岡地本は、今後も地元の祭典に積極的に協力し、自衛隊に対する理解や親近感の向上に邁進していく。